

経営技術視点で読み解く グローバルビジネスの課題と戦略

ー現研データと国際機関データの多面的分析から提言ー

■講師 (株)現代経営技術研究所

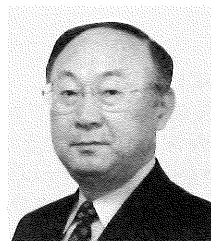
シニアコンサルタント 藤井 隼夫

■日時 2013年3月8日(金) 13:30~16:45

■場所 丸ビルコンファレンススクエア Room 3

東京都千代田区丸の内2-4-1 TEL.03(3217)7111

*裏面地図をご参照ください。



藤井隼夫

< 講師の言葉 >

■数字は日本企業の国際競争力実態を冷徹に映しています。すでにアジアを中心とする主要新興国の後塵を拝し、加えて次の勢力圏の追い上げは早く、このままでは指導的立場の逆転は避けられません。その要因は企業競争活動の本質的ニーズに合わない人材開発にあります。今こそ現在がはらむ過去の本質的な力と未来を知覚し、直観の論理化によって自社の強みを生かす「経営の新生化」が緊要な課題であります。

■経営技術の視点から読み解く経営について3回シリーズで適格戦略(次回は6月にグローバルな賃金高騰への備えを、そして7月には主要企業のアンケートとPT分析手法等を駆使して新グローバル経営と人材開発戦略)を提案いたします。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

セッションⅠ 現研データ・国際機関等のデータ分析内容の報告ー衰微した失地回復力の行方ー

1. グローバルビジネスで負け続ける日本経営の実情
ー国別・地域別・業種別の売上高・収益率・シェア獲得率
2. アジアで後塵を拝す日本企業の実力実態で心配される競争優位性の維持
3. 世界各国現地の日本管理者の低評価の現実で伍していけるか
4. 最下位レベルのビジネスエンゲージメントと上級幹部の国際経験とビジネススキルと魅力度の実態
5. 競争ニーズに貢献しない教育システムとこれまでのマネジメント教育の現実
6. 世界最上位レベルの教育投資で世界最低レベルの企業競争力貢献度と心構えと順応度の現状
7. 御座なり・他人事になった教育・訓練の現実
8. 立ち遅れた本社中心・現地監視型マネジメントの姿勢とシステムの落とし穴

セッションⅡ グローバル価値創造経営ー新生戦略

1. 現在がはらむ過去と未来：未来への知覚のもとで過去の自社の強みをどう生かすか
2. 隠れた問題への挑戦：知覚・直観の論理化力(見えないものを見通す力)をいかにして身につけるか
3. サイエンス(分析・検証)とアート(直観)の融合経営の創新(ソニーとホンダの例から)：横並び相対価値競争から絶対価値創造への思考転換
4. 企業競争力強化に貢献する人材開発戦略：経験(K)・感性(K)・検証(K)・度胸(D)
5. 失地回復力を生み出す教育システム・訓練の抜本的改革手法
6. 企業競争ニーズを満たすマネジメント・リーダー養成のあり方：How to DoからWhat To Doへの転換

セッションⅢ コンサルティングアワー

講師への質問と相談に対する回答と助言、参加者相互のディスカッションと情報交換を致します。参加者から提起された問題については、時間が限られているために後日訪問・フォローアップ会合を持つ場合があります。

URL:<http://www.gen-ken.co.jp>